

議員氏名：大沼 英樹

議案番号：議案第30号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

討論内容：

私は、議案第30号に反対の立場から討論をいたします。

まず申し上げたいのは、議会が一度、否決という極めて重い判断をしたにもかかわらず、本予算案からは、その意思に真摯に向き合った形跡が見えないということです。今回の質疑でも、町民に不安が生じる予算否決という大きな不祥事を発生させながらも、町長、副町長が自ら説明や理解を求める行動はありませんでした。予算総額は前回と同額の105億3,500万円、当初提出された内容と構成は大きく変わらず、どこを見直し、何を反省し、何を改めたのか、伝わっていないと思います。

否決とは、もう一度考え直してほしいという、議会からの意思表示です。しかし、今回見えてくるのは、再検討ではなく、そのまま通したいという執念に感じます。否決という異常事態の中、本来であれば、首長自らが先頭に立ち、職員と徹底的に議論し、議会の懸念を洗い直し、自ら説明に回るべきだと思いますが、なぜ否決されたのかという根本的な理解が十分には見えません。予算総額を変えず、小さな事業追加で理解してほしいと繰り返すとしたら、それは押し通しです。

特に問題なのは、支持基盤まで30メートルを超えるという、この深さは、地上で言えば10階建てに相当するものであり、今後、数億もの予算増額をはらむ可能性のある、不適切な計画地の選択となっていると思います。さらにここに、ラディアン改修という、長期的に大きな財政負担を残す大型事業を同時期に進めようとしている点は、大きな問題です。

町民生活を取り巻く環境は、厳しさを増しております。出生数は減少し、人口減少は加速をし、防災や子育て、教育環境の整備など、待ったなしの課題に手をつけることができていません。ラディアン改修の必要性を問えば、老朽化、にぎわい、居場所という抽象的な説明に終始し、合理化、費用対効果、改修や集約後に町民にどのような利益が生まれるのか、代替業務など、具体的な説得も欠けております。新庁舎建設では、上振れどころか、予算の見直しに近い支出増が予想される中、さらに大型の財政支出を発生させるラディアン改修事業は、計画的に順序立てて取り組む必要があることを問題の第1順位として考えています。

今回の質疑で、学校のトイレ、バスロータリーの修繕は、これまでできなかったのではなく、バス事業者から言われたら実施するという、やろうとしてこなかったことが明白になったのは、非常に残念です。これでは、弱者や都合の悪い声は無視するか後回しになる、行き当たりばったり、その場しのぎの行政に映ってしまいます。

誰に対して誰がどのような責任を持って、この町を動かしているのか。耳触りのよい言葉を探し、都合の悪い声に耳を塞ぐのではなく、しっかりと説明責任を果たし、議会と向き合い、町民の不安に真正面から応える覚悟は、首長本人に求められる必須条件だと思います。否決という議会判断を受けても十分な見直しがなされないのであれば、議会の意思はもちろん、その先にいる町民の声まで軽視していると言われても仕方がありません。以上の理由から本予算案には賛成をすることはできないことを申し上げ、反対討論といたします。